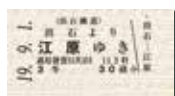




過去から未来を見つめる「出石みらい鉄道」。 出石鉄道の機関車を段ボールで再現

豊岡市商工会出石支部
50周年事業実行委員長

川原一郎さん(35歳)



お披露目式(右)と復刻
記念切符



出石地域に戦前まで走っていた出石軽便鉄道(株)の機関車を原寸大のダンボールで復元したのが豊岡市商工会青年部出石支部の皆さんです。同支部は今年で創立50周年。出石鉄道の設立100周年とも重なるため、記念事業として復元プロジェクトを始めました。

出石鉄道は1919年、当時としては珍しい住民有志が出資して設立(出石―江原間(11.2km))。実行委員長の川原一郎さんは「忘れられつつある歴史遺産の継承と、子どもたちに郷土愛を育みたい」

と語ります。構想から完成までは2年8カ月。車両に関する資料はほとんどなく、当時の手書きの車両スケール図を基に、詳細部分は制作班らが加悦鉄道(京都府)に幾度も出向き、現存する兄弟車を実測したそうです。新規に作図した設計図面は70枚に上ります。

段ボールの加工は全てが手作業で、一部作業を六つの地元コミュニティと共に製作。かつて住民有志が鉄道を通じたように、多くの地域住民の手により「出石みらい鉄道」は復元されました。

Toyooka Topics —とよおかの“旬”な人と話題—



▲一般客による勇壮な火振り

愛宕の火祭り

火振りで無病息災を祈願

8月25日、伊福部神社(出石町中村)境内周辺で「第40回愛宕の火祭り」が行われました。戦後途絶えていたこの祭りを1980年に地域住民らが協力して復活させて以来、40回目の開催でした。主催は地域住民により結成された「愛宕火祭り奉賛会」で、準備から運営までを担っています。

一番の見どころは、縄でくくった麦わらに愛宕神社境内でおこした神聖な火を付け、体の周りを回して無病息災を願う「火振り」です。出石太鼓「炎」の気迫に満ちた演奏をバックに100人以上の子どもや大人が、怖がりながら、または慣れた様子で堂々と火を振り回し、夜の境内に次々と炎の輪を描きました。

東井義雄教育塾「講演会」

新たなふるさとづくりの一助に

8月18日、但東市民センターで「東井義雄教育塾『講演会』～ふるさとを愛する学力～」が開催され、地域住民や教育関係者ら142人が、東井さんの教育・人生観を学びました。

講演では、鳥取大学地域学部長の山根俊喜さんが、日本の子どもの学力の問題点を挙げ「村を育てる学力」とは何かを読み解いていきました。また、パネルディスカッションでは、但東中学校や出石高校の地域での取組みなどが紹介されました。

榎本輝雄さん(81歳)は「小学5年の時、先生から高度な農業技術などを学んだ。実践教育で子どもの可能性を伸ばすプロだった」と回想しました。



▲合橋小2年生が音楽劇で地区の自慢を発表